



WASEDA WEEKLY

2009 **3.18**
号外

早稲田大学学生部

調査結果報告 大麻等の違法薬物についての意識調査

～はじめに～

本学では、違法薬物にかかわる事件で2008年までに7名の学生が逮捕されました。本学はこの事件を極めて重く受け止め、記者会見を開き、事件についてお詫びし、在学生全員および教職員に向け改めて違法薬物に関する注意を行い、再発防止策について言明しました。2008年12月に学生の皆さんの大麻等の違法薬物に関する認識および意識について把握するため、「大麻等の違法薬物についての意識調査」を実施しました。年末にもかかわらず多くの皆さんから回答が寄せられました。本号外では、調査の結果について、個人情報に触れることのない範囲で報告します。

学生の皆さんにおいても、本調査結果を熟読し、まず本学における現状を把握した上で、すでに提供されている『Course N@vi』（大麻等の違法薬物防止講習）や『早稲田ウィークリー』（1173号 2008年11月20日掲載※下記Webページ参照）で違法薬物に関する正しい情報を認識し「違法薬物にはゼッタイに手を出さない」心構えを身につけてください。

今後本学はこの調査の結果を踏まえ、違法薬物使用などの防止に関する講習会、全学共通科目における啓発、学生生活に関する指導・広報の見直しなど、防止のための対策を継続的に講じる予定です。

学生部長 島田 陽一

■『早稲田ウィークリー』（1173号 2008年11月20日掲載）Webページ

(URL) <http://www.waseda.jp/student/weekly/contents/2008b/1173/173g.html>

違法薬物乱用再発防止策

- 専門家による「薬物乱用防止講習」を4月5日（日）（新生向け）、6月12日（金）（在学生向け）にそれぞれ大隈講堂にて実施します。
- 2009年1月16日よりCourse N@vi（eラーニングシステム）で「大麻等違法薬物乱用防止講習」を公開しています。また3月下旬より、同コンテンツの英語版も公開します。
- 「早稲田大学基礎講義—早大生のためのリテラシー（仮）」（*）の授業科目の中で学生としての心構えの一つに違法薬物等に関する内容を取り上げ、認識を深める取り組みを行います。

*本科目は、学生生活を送る上での心構えや倫理観、本学の歴史など、本学の学生として知っていなければならない事柄について新生に伝達・教授することを目的として設置するもので、2009年度はトライアル科目として設置し、2010年度より正規科目として設置する予定です。

違法薬物について 学生はどう考えているのか？

本調査から明らかになった本学学生の違法薬物に関する知識や実態について、以下に概観したい。

調査結果から、この事件が一般の学生に及ぼした衝撃の大きさがうかがえた。特に意識調査の記述回答からは「自分と同じ立場の人間にまで違法薬物の脅威が迫っていることに不安を感じる」、「大変に残念であり、非常に嘆かわしい」、「身近に薬物を使用している人がいることは怖いことだと思った。早稲田は人数も多く規模が多いので、他にも薬物に関わっている人がいるのではないかと心配である」といった意見が多数寄せられた。

また、違法薬物についての印象は「使用・所持は悪いことだ」(89.6%)、「犯罪に巻き込まれる危険性」(94.7%)、「薬物中毒になる危険性」(93.8%)と薬物の持つ危険性の認識は高いが、若干ながら「ダイエットに効果がある」(4.9%)、「眠気覚ましに効果がある」(9.2%)、「ストレス解消によい」(14.8%)、「アルコールより害が少ない」(3.1%)、「タバコより害が少ない」(7.8%)、「一度くらいなら害は少ない」(6.1%)と身体によい影響がある、または害が少ないと考える学生もいた。その中でも「気持ちよくなれる」(26.1%)、「ストレス解消によい」(14.8%)という回答が多くみられた。

さらに、その違法性については、男女別に見てもほぼ全員の学生が「知っている」と回答しているが、「国によっては大麻等の違法薬物の密輸・所持・使用が死刑や終身刑を含む厳罰に処される」ことについては3割以上の学生が「知らない」と回答している。

他方で、違法薬物への興味や関心について「とても興味がある」(2.3%)、「少し興味がある」(5.6%)、「あまり興味はない」(16.4%)、「まったく興味はない」(75.6%)で、若干ではあるが「興味がある」という回答もあった。違法薬物の入手に関しても6割弱の学生が、「なんとか手に入る」、「簡単に手に入る」と回答している。実際、学生がおかれている環境は、違法薬物に対して想像以上に接近しやすいものであると、学生自身が認識していることがわかった。

違法薬物を興味本位で乱用すると、心も体も壊してしまうだけでなく、家族や友人をも巻き込み、大切な人生を台無しにしてしまうことになる。

とりわけ若者が違法薬物に安易に手を出すことの原因として「ダイエットに効果がある」、「疲れがとれる」、「嫌なことが忘れられる」、「酒・タバコよりも強い刺激がある」、「1回くらいなら大丈夫」、「大した害はない」といった誤った知識や理解によるところがある。違法薬物に関する知識を一人ひとりが正しく理解し、**ゼツタイに麻薬・覚せい剤、大麻等の違法薬物に手を出さないようにしなければならない。**

調査概要

【調査期間】	2008年12月10日(水)～2009年1月21日(水)
【調査方法】	Waseda-netポータルによるWeb調査(日本語調査票と英語調査票) 自記式・無記名調査
【調査対象者】	全学生(学部生44,648名、大学院生8,626名)
【有効回答者数】	4,702名(日本語調査票回答者4,510名、英語調査票回答者192名)
【有効回収率】	全体8.8%、学部生8.6%、大学院生9.5%
【調査項目】	基本属性：学部生・大学院生別、性別 違法薬物に関する教育経験：本学広報紙の周知(Q1)、(Q2) 違法薬物に関する印象・知識：講習会・授業受講経験(Q3)作用、違法性、(Q3～Q7) 違法薬物に関する興味・関心：興味の有無(Q8)興味への具体的内容(記述回答)(Q9) Webや書籍の閲覧経験(Q10) 違法薬物に関する現状について：薬物入手(Q11)所持、使用した人の有無(Q12) 違法薬物の勧誘経験(Q13)、違法薬物所持者への処分(Q14) 本学事件に関する意見や感想：事件への感想(Q15)、大学の対応(Q16)、本調査への意見(Q17)

全設問の単純集計結果は7ページ

※表内「N」は無回答・不明を除く実数。この報告書の単純集計およびクロス集計は、原則として無回答を除いて集計した数値。

■違法薬物についての知識

まず、本学学生が大麻等の違法薬物についてどのような知識を持っているのかをみよう。具体的には10項目をとりあげ、それぞれについてどう思うかを判断してもらった。その結果、図1のように、「気持ちよくなる」、「ストレス解消によい」、「眠気覚ましに効果がある」については、ある程度の割合で「そう思う」という回答がみられた。「使用・所持は悪いことだ」については、9割程度の学生が「そう思う」と回答する一方で、「そう思わない」、「わからない」という回答も、1割を超えている。

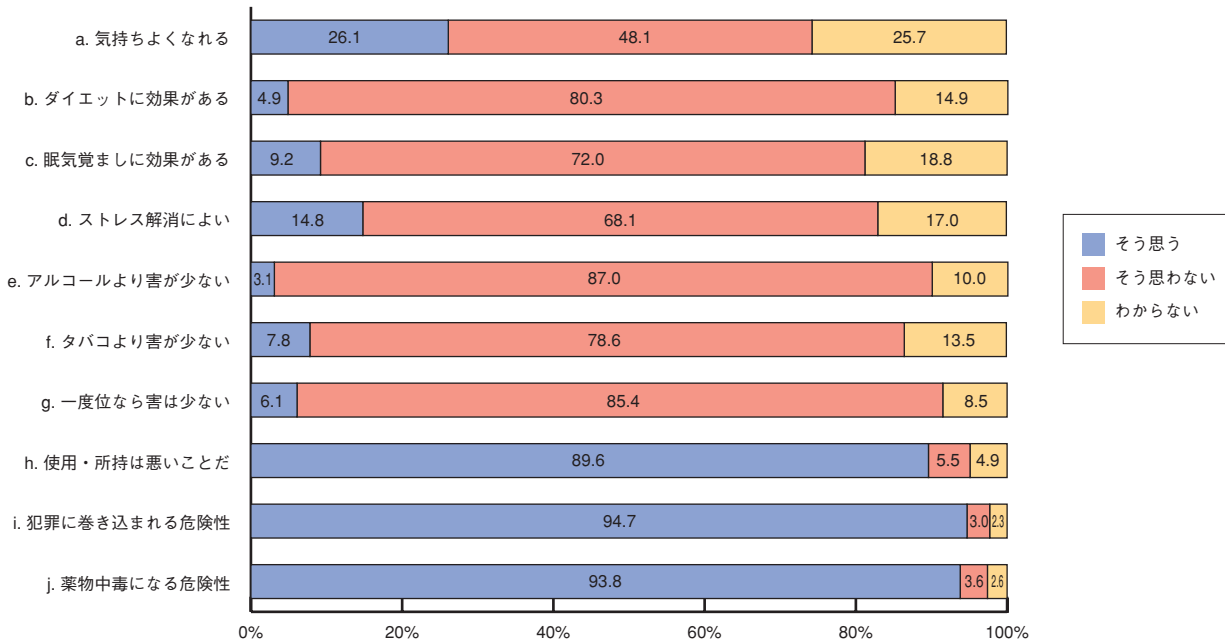


図1 大麻等の違法薬物に対する学生の考え (Q4)

図2は性別でみた結果である。「気持ちよくなる」、「ストレス解消によい」、「タバコより害が少ない」、「一度くらいなら心身への害は少ない」という項目では、女性に比べて男性で「そう思う」の割合が若干高い。一方、「ダイエットに効果がある」という項目では、女性の方が「そう思う」の割合が若干高い。

また「使用・所持は悪いことだ」、「犯罪に巻き込まれる可能性がある」、「薬物中毒になる可能性がある」のいずれの項目についても、男性よりも女性のほうが「そう思う」の割合が若干高い。

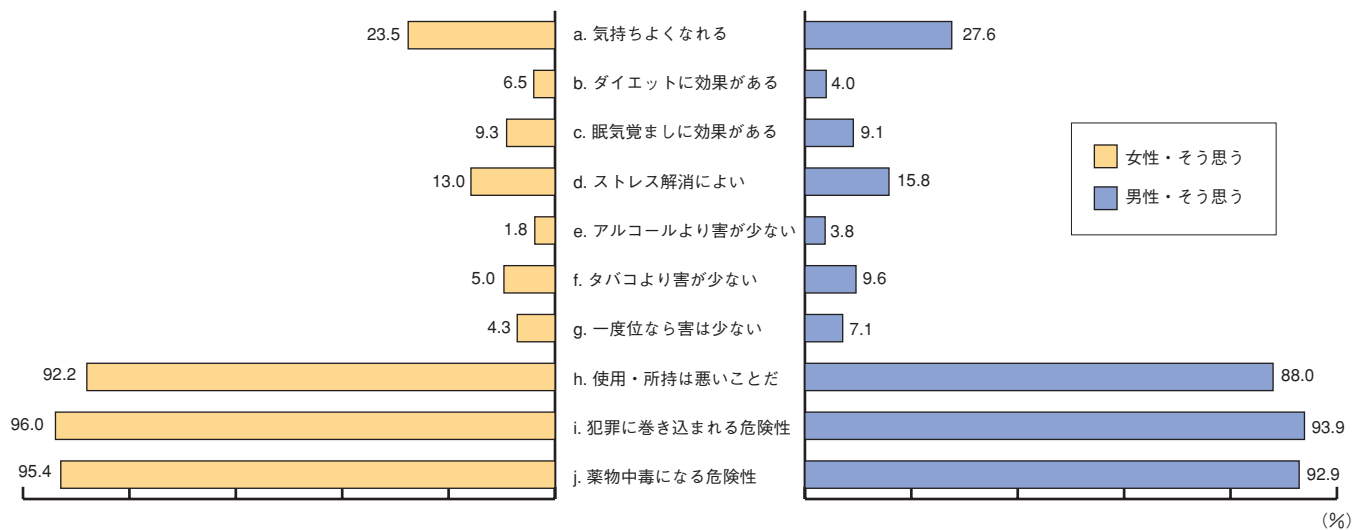


図2 性別にみた大麻等の違法薬物に対する学生の考え (Q4)

また、大麻等が『ゲートウェイドラッグ』と呼ばれ、他の違法薬物の入り口となり、違法薬物を取り巻く犯罪へ巻き込まれたり、薬物中毒による心身の崩壊を起こすきっかけとなることがきわめて多いことについては、全体では「知っている」が7割にとどまった。大学院の男女のうち女性が、学部生より「知っている」と回答した割合が高い。

さらに、大麻等の違法性について問うたところ、所持・栽培の違法性（Q5）については、いずれの属性においても「知っている」が9割強で、「知らない」という回答者はわずかだった。それに対し、「国によっては大麻等の違法薬物の密輸・所持・使用が死刑や終身刑を含む厳罰に処されること」（Q6）については、「知っている」の割合は7割に満たない。

表1 「ゲートウェイドラッグだと知っているか」（Q7）（%）

	N	知っている	知らない
全体	4649	70.7	29.3
学部・男性	2332	70.0	30.0
学部・女性	1494	69.7	30.3
大学院・男性	588	73.8	26.2
大学院・女性	235	77.0	23.0

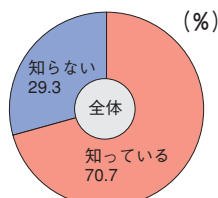


図3 「ゲートウェイドラッグだと知っているか」（Q7）

表2 所持・栽培が法律違反だと知っている（Q5）（%）

	N	知っている	知らない
全体	4653	97.1	2.9
学部・男性	2332	96.8	3.2
学部・女性	1496	97.5	2.5
大学院・男性	590	97.1	2.9
大学院・女性	235	96.6	3.4

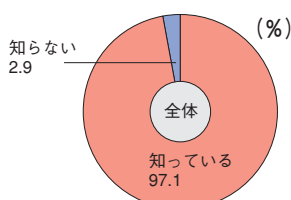


図4 所持・栽培が法律違反だと知っている（Q5）

表3 死刑や終身刑の国もあると知っている（Q6）（%）

	N	知っている	知らない
全体	4656	67.7	32.3
学部・男性	2331	67.3	32.7
学部・女性	1494	64.5	35.5
大学院・男性	586	74.4	25.6
大学院・女性	235	75.3	24.7

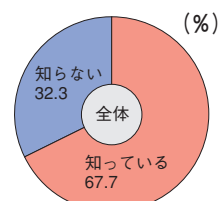


図5 死刑や終身刑の国もあると知っている（Q6）

※ 表内Nは無回答・不明を除く実数

違法薬物についての教育や情報

現在、違法薬物について、義務教育課程で薬物乱用の有害性・危険性に関する指導の充実、広報啓発や街頭補導活動の強化をはじめとした環境整備が行われている。

本学でも、学内広報紙『早稲田ウィークリー』で「身近な危険！覚せい剤・麻薬、薬物乱用から身を守れ！」（2008年7月10日発行）「違法薬物にはゼツタイ手を出すな」（11月20日発行）と題して2回の特集記事を掲載した。また、同年9月には同内容の啓発リーフレットを配布している。これらの広報活動を通じて、その違法性や危険性について繰り返し周知してきた。実際に、学生はどの程度こうした警告に触れているのだろうか。これまでに違法薬物に関する講義や講演会、本学作成のパンフレットなどで情報を収集したかについて問うたところ（Q1）については、全体で、8割近くの学生が広報冊子の存在を知らなかった。

本学では学内広報紙や各種媒体を通じて学生にとって重要な情報を発信している。これらの媒体を通じて確実かつタイムリーに情報を得る習慣を付けてもらいたい。

表4 広報冊子を読んだか（Q1）

	N	読んだ	知っているが、読んでいない	知らないが、読んでみたい	知らないし、読んでみたいと思わない
全体	4641	7.4	13.6	38.3	40.7
学部・男性	2325	6.8	13.8	36.0	43.4
学部・女性	1493	7.4	13.9	42.9	35.8
大学院・男性	589	9.8	12.7	32.6	44.8
大学院・女性	234	7.3	12.4	46.2	34.2

■違法薬物についての興味・関心

学生の違法薬物についての興味や関心の程度（Q8）については、全体で7割強の学生が「まったく興味はない」と答えている。「あまり興味はない」と合わせると9割程度の学生は「興味はない」と回答している。男女別にみると、ほぼ同じ割合だが「とても興味がある」は男性のほうが若干高い。

表5 違法薬物への興味（Q8）

	N	とても興味がある	少し興味がある	あまり興味はない	まったく興味はない	(%)
全体	4660	2.3	5.7	16.4	75.6	75.6
男	2338	2.8	5.5	16.4	75.2	75.2
女	1497	1.4	5.9	16.4	76.2	76.2

また、「とても興味がある」「少し興味がある」と答えた学生に対して具体的内容を問うたところ、自身が使用することに興味を示す回答はほとんどなく、心身への悪影響を知っていながらドラッグに手を出してしまう心理、社会背景などに興味があるという回答が多かった。

■違法薬物に関する学生をとりまく環境

周囲に所持や使用者がいるか、また入手の可能性について、学生がどのように認識しているか（Q12）については、全体の約1割が「いる」と回答している。「いない」は7割強、「わからない」が2割強である。属性別にみると、男性に比べて、女性で「いる」の割合が若干高い。また男性は女性に比べて「わからない」の割合が若干高い。

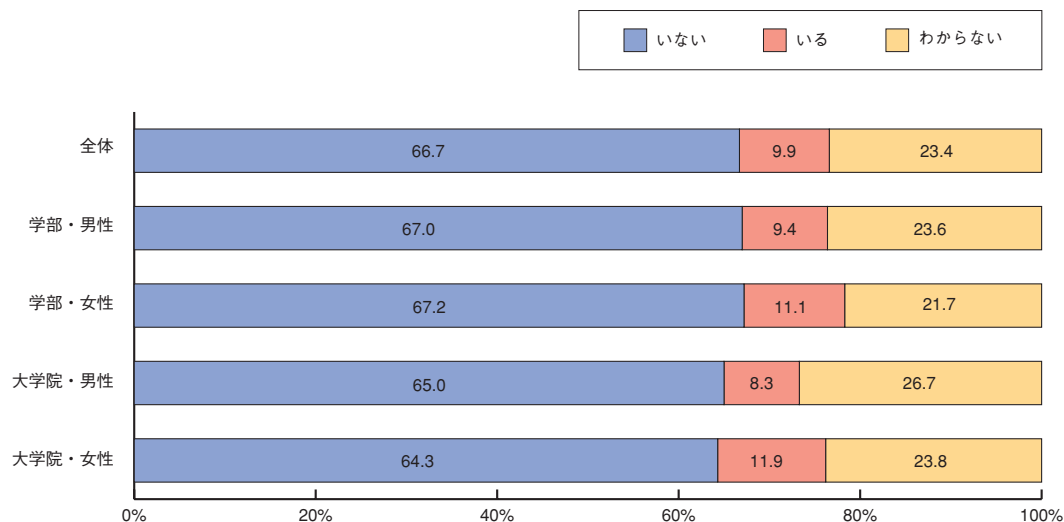


図6 Q12 周囲に大麻等の違法薬物の所持・使用者はいるか（Q12）

これまでに大麻等の違法薬物を他人から勧められた経験があるか（Q13）については、全体の9割以上が「ない」と答えている。ただし「ある」も5%以上の割合を占めている。これらの結果から違法薬物が学生の身近に迫っているという実態が分かった。

表6 他人から違法薬物を勧められたか（Q13）（%）

	N	ない	ある
全体	4649	94.4	5.6
学部・男性	2335	94.4	5.6
学部・女性	1494	94.2	5.8
大学院・男性	586	93.7	6.3
大学院・女性	234	97.0	3.0

大麻など違法薬物の入手について（Q11）問うたところ、図7のように、全体では「なんとか手に入る」がもっとも多く3割強、ついで「わからない」が約2割、「ほとんど不可能だ」「簡単に手に入る」はともに2割程度、「絶対不可能だ」は1割に満たなかった。「なんとか手に入る」「簡単に手に入る」をあわせると、過半数の学生が「違法薬物は手に入る」と考えている。

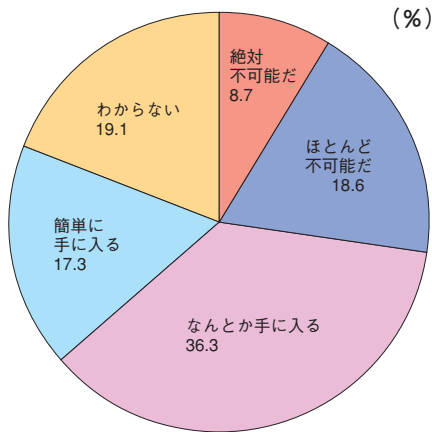


図7 仮に、あなたが大麻などの違法薬物を手に入れようとした場合、どの程度むずかしいと思いますか。(Q11)

このたびの大麻等の違法薬物に関与した本学学生全員が、退学処分となっていることを知っているか（Q14）については、全体では「知っている」が約8割、「知らない」が2割強だった。属性による違いはあまりみられない。

表7 退学処分になったことを知っているか（Q14）（%）

	N	知っている	知らない
全体	4653	76.6	23.4
学部・男性	2332	75.9	24.1
学部・女性	1497	77.6	22.4
大学院・男性	590	77.5	22.5
大学院・女性	234	75.6	24.4

■本学学生の事件について

前述のとおり、今回の事件については本学の学生にも大きな衝撃を与えた。意識調査における記述回答においても、「同じ学生として非常に恥ずかしい」「薬物が身近に迫っていることが恐怖だ」「こんなことで人生を台無しにしてはいけない」などといった意見が多数寄せられた。また、少数ではあるが「一個人が起こした問題なのでどうとも思わない。事件を起こした人は、法に従って裁きを受ければそれでいいと思う」など、特別に強い関心を示さない学生もいた。

また本学の対応については、「大学の対応が早く適切であった」という意見もある一方、「対応が遅い」、「対策が後手に回っている」、「違法薬物に接点のあるような学生はアンケートには回答しないので意識調査はあまり意味がない」、という意見もあった。本学はこのような意見を参考にできるだけ迅速、適切に学生の指導を行っていく所存である。

■大麻等の違法薬物についての学生調査

質問項目・集計結果

※ Nは無回答・不明を除く実数

●違法薬物への警告に関する学内広報について

Q 1) あなたは、学生部が今年度7月に作成・配布した『覚せい剤・麻薬、薬物乱用から身を守れ!』という冊子を読んだことがありますか。またはこの冊子を知っていますか。知らなかった場合は読んでみたいと思いますか。

	N=4671 ()内は実数
読んだ	7.4% (345)
知っているが、読んでいない	13.6% (637)
知らないが、読んでみたい	38.3% (1,789)
知らないし、読んで	
みたいと思わない	40.7% (1,900)

Q 2) あなたは、2008年7月10日および11月20日発行のWASEDA WEEKLYトピックス「覚せい剤・麻薬、薬物乱用から身を守れ!」という記事を読みましたか。読んでいない場合は読みたいと思いますか。

	N=4679 ()内は実数
両方とも読んだ	6.7% (311)
7月10日号は読んだ	1.5% (70)
11月20日号は読んだ	7.6% (357)
読んでいないが、読んでみたい	40.5% (1,901)
読んでいないし、読んで	
みたいとも思わない	43.6% (2,040)

●違法薬物についての印象・知識

Q 3) あなたは、今まで「薬物乱用防止」等に関する講習会や授業を受けたことがありますか。ある場合それはいつごろですか。(複数回答可)

	N=7713 ()内は実数
小学生時代	32.3% (1,513)
中学生時代	60.5% (2,833)
高校生時代	49.1% (2,301)
受講経験なし	22.8% (1,066)

Q 4) あなたは、大麻等の違法薬物についてどのように考えていますか。

以下の項目それぞれについて、あてはまる番号を1つ教えてください。

Q 4 a. 気持ちよくなる	N=4686 ()内は実数
そう思う	26.1% (1,221)
そう思わない	48.1% (2,255)
わからない	25.7% (1,210)

Q 4 b. ダイエットに効果がある	N=4681 ()内は実数
そう思う	4.9% (230)
そう思わない	80.3% (3,756)
わからない	14.9% (695)

Q 4 c. 眠気覚ましに効果がある	N=4679 ()内は実数
そう思う	9.2% (428)
そう思わない	72.0% (3,368)
わからない	18.8% (883)

Q 4 d. ストレス解消に良い	N=4678 ()内は実数
そう思う	14.8% (691)
そう思わない	68.1% (3,188)
わからない	17.0% (799)

Q 4 e. アルコールより害が少ない

	N=4676 ()内は実数
そう思う	3.1% (143)
そう思わない	87.0% (4,066)
わからない	10.0% (467)

Q 4 f. タバコより害が少ない

	N=4682 ()内は実数
そう思う	7.8% (368)
そう思わない	78.6% (3,681)
わからない	13.5% (633)

Q 4 g. 一度くらい使うのは心や身体への害は少ない

	N=4682 ()内は実数
そう思う	6.1% (285)
そう思わない	85.4% (3,999)
わからない	8.5% (398)

Q 4 h. 使用したり、所持することは悪いことだ

	N=4686 ()内は実数
そう思う	89.6% (4,195)
そう思わない	5.5% (257)
わからない	4.9% (234)

Q 4 i. 犯罪に巻き込まれる危険性がある

	N=4684 ()内は実数
そう思う	94.7% (4,433)
そう思わない	3.0% (142)
わからない	2.3% (109)

Q 4 j. 薬物中毒になる危険性がある

	N=4673 ()内は実数
そう思う	93.8% (4,385)
そう思わない	3.6% (167)
わからない	2.6% (121)

Q 5) あなたは、「現在日本では、大麻を使用しなくてもその所持や栽培が法律違反に当たる」ことを知っていますか。

	N=4681 ()内は実数
知っている	97.1% (4,541)
知らない	2.9% (140)

Q 6) あなたは、「国によっては大麻等の違法薬物の密輸・所持・使用が死刑や終身刑を含む厳罰に処される」ことを知っていますか。

	N=4674 ()内は実数
知っている	67.7% (3,164)
知らない	32.3% (1,510)

Q 7) あなたは、「大麻が<ゲートウェイドラッグ>と呼ばれ、他の違法薬物への入り口となり、違法薬物を取り巻く犯罪へ巻き込まれたり、薬物中毒による心身の崩壊を起こすきっかけとなることが極めて多い」ことを知っていますか?

	N=4677 ()内は実数
知っている	70.7% (3,301)
知らない	29.3% (1,376)

●違法薬物への関心について

Q 8) あなたは、現在、大麻等の違法薬物に興味がありますか。

	N=4688 ()内は実数
とても興味がある	2.3% (108)
少し興味がある	5.6% (265)
あまり興味がない	16.4% (770)
まったく興味はない	75.6% (3,545)

Q 9) [Q 8で「とても興味がある」「少し興味がある」と答えた方にうかがいます]どのような点に興味がありますか。よろしければ具体的にその内容を教えてください。

Q 10) あなたは、これまでに大麻等の違法薬物に関するWebサイトや書籍などを閲覧したことがありますか。

	N=4662 ()内は実数
よく閲覧している	1.6% (72)
数回、閲覧したことがある	26.0% (1,209)
1回も閲覧したことがない	72.5% (3,381)

●違法薬物に関する現状について

Q 11) 仮に、あなたが大麻など違法薬物を手に入れようとした場合、どの程度むずかしいと思いますか。

	N=4686 ()内は実数
絶対不可能だ	8.7% (410)
ほとんど不可能だ	18.6% (870)
なんとか手に入る	36.3% (1,704)
簡単に手に入る	17.3% (809)
わからない	19.1% (893)

Q 12) あなたのまわりで、大麻等の違法薬物を所持したり、使用している(いた)人はいますか。

	N=4680 ()内は実数
いない	66.7% (3,117)
いる	9.9% (464)
わからない	23.4% (1,099)

Q 13) あなたは、これまでに大麻等の違法薬物を他人から勧められたことがありますか。

	N=4676 ()内は実数
ない	94.4% (4,413)
ある	5.6% (263)

Q 14) あなたは、このたびの大麻等の違法薬物に関与した本学学生全員が、退学処分となっていることを知っていますか。

	N=4679 ()内は実数
知っている	76.6% (3,581)
知らない	23.4% (1,098)

●その他(記述回答)

Q 15) あなたは、このたびの大学生が関わった大麻等の違法薬物事件について、どのように考えていますか。

Q 16) あなたは、このたびの本学学生による違法薬物使用や所持に対する処分等、本学の対応(11月17日の記者発表以降)について、どのように考えていますか。

Q 17) 最後に、大麻等違法薬物について、あるいは今回の意識調査についてのご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

緊急再警告

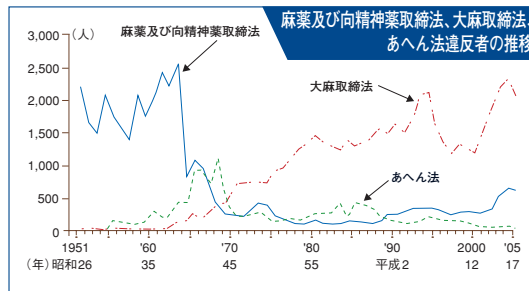
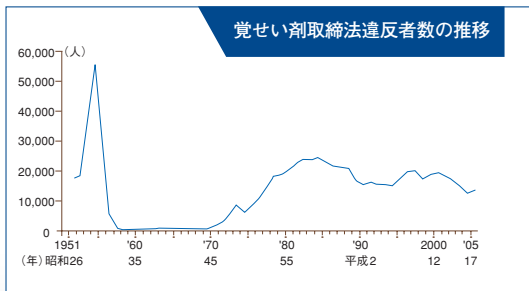
違法薬物にはゼツタイに手を出すな!

違法薬物を勧める際の常套文句「疲れが取れる」「頭がスッキリする」「らくにダイエットができる」などの誘い文句はすべて誤った情報だ。いかなる麻薬・覚せい剤も、違法ドラッグも、各種犯罪を誘発し、生涯にわたる脳や心身への危害は計り知れない。また、違法薬物を手にした時点で、厳しい社会的制裁を受け、人生を棒に

振ることになりかねない。学生諸君は、問題の重要性をよく認識し、決して違法薬物には手を出してはならない。早稲田大学の学生としての本分を自覚し、良識ある行動をとるよう強く望むとともに、本学はこのような違法行為に対して厳罰をもって臨むことをここに申し添える。

現在は、戦後3度目の「覚せい剤乱用期」!

日本では、法律が厳しく、海外諸国に比べれば薬物乱用は深刻でないと思われる。しかし、'97年ごろから覚せい剤乱用が全国的に広がり始め、'50年代、'80年代に続く、第3次覚せい剤乱用期とされている。「大麻取締法」違反も多い。覚せい剤関連の検挙者数が減らないだけでなく、乱用薬物の種類が増えている。05年にはMDMA（俗称エクスタシー）などの錠剤型の麻薬の押収量が57万錠を越えて過去最高となり、新規の化学物質が乱用されるようになった。07年には改正薬事法が施行され、科学的根拠に基づき依存性、精神毒性が確認された物質については麻薬等に指定され、取締りが強化されている。



【参考資料】『国民衛生の動向 厚生指針 臨時増刊』(07年8月発行) P262~264

覚せい剤、大麻、麻薬…「白い粉」の粉末や結晶だけではなく。枯葉状、茶葉状、樹脂状、液状、錠剤など形状も多彩だ。呼び方も種類も数限りなく、美しい絵柄やパッケージの愛らしさや呼称の違いにも惑わされないように!

()は通称

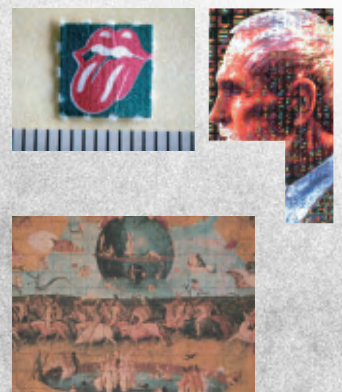
写真提供：厚生労働省 関東信越厚生局 麻薬取締部

コカイン (C(シー)、コーク、クラックなど)



マジックマッシュルーム (ホングレイトス、キノコなど)

LSD (ペーパー、タブレットなど)



覚せい剤 (スピード、シャブ、S(エス)など)



MDMA (バツ、エクスタシーなど)



大麻 (ハシッシュ、マリファナ、はっばなど)



5-MEO-DIPT (ゴメオ)



▲「麻薬や覚せい剤だとは思わなかった」では済まされない!